



地域の皆様と共に歩みます。
これまでも、これからも。

当行のシンボルマーク

当行は平成元年にCI計画を導入し、このシンボルマークを使用しております。このマークは、皆様と当行の強い信頼関係の上に、共に発展していくため、当行のイニシャルである「F」をダイナミックにシンボル化したものです。

グリーン三角は地域の発展を示し、白とグリーンで円を描いている部分は、皆様と当行のふれあいを表しております。

この三角と円のハーモニーによって、全体にイメージされる「F」のデザインは、地域と皆様の繁栄に貢献し、未来永久に幸せをもたらしていきたいという当行の決意を示しております。

プロフィール (平成14年3月末現在)

名称	株式会社 福邦銀行 The Fukuho Bank, Ltd.
本店所在地	福井市順化1丁目6番9号
創立	昭和18年11月5日
資本金	43億円
預金	4,328億円
貸出金	3,402億円
発行済株式総数	31,800千株
自己資本比率	8.57% (国内基準)
店舗数	51カ所
キャッシュコーナー	123カ所
従業員数	547名
ホームページアドレス	http://www.fukuho.co.jp

福邦の心

至誠の心

信頼の絆と責任を自覚し、お客様にまごころを尽くします。

和の心

お互いの立場を理解し、喜びを分かちあう心を育てます。

進取の心

変化に対応する熱意と挑戦する心を養います。

共存共栄の心

お客様第一に徹し、共存共栄の心で奉仕します。

このディスクロージャー誌「FUKUHO REPORT 2002」は、銀行法第21条に基づき、当行の経営方針、最近の業績や活動状況について、できるだけ分かり易くご説明させていただくことを心がけて作成しました。

当行が何を目指し、どのように取り組んでいるのか、皆様のご理解をより一層深めていただければ幸いです。

ぜひご一読いただきますようお願い申し上げます。

CONTENTS

FUKUHO REPORT

福邦の心・当行のシンボルマーク・プロフィール	1
頭取あいさつ・経営理念	2~3
平成13年度業績の概要	4~5
より健全な銀行を目指して [不良債権について/リスク管理体制/コンプライアンスに対する考え方/積極的な情報開示の推進/ペイオフ解禁について/金融商品の販売等に関する勧誘方針]	6~10
社会・地域への貢献	11
時代の変化に対応するサービスの創造 [トピックス/新商品・新サービスのご案内/笑顔・あいさつ1番銀行への挑戦]	12~13
コーポレートデータ [役員/組織図/関係会社の状況/従業員の状況/採用人員(新卒者)/沿革]	14~15
ネットワーク [店舗一覧/店舗外キャッシュコーナー]	16~17
主な業務のご案内 [預金業務/貸出金業務/証券業務/国際業務/各種サービス業務/手数料]	18~22
資料編	23~45

地域金融機関として 社会に貢献してまいります。



平素より私ども福邦銀行を格別にお引き立ていただき誠にありがとうございます。

私どもは昭和18年の創立以来、地域社会への貢献のため健全な経営を続け、皆様とともに発展を遂げてまいりました。これもひとえにお取引先、株主の皆様をはじめ地域の皆様のお陰でございます。心から厚くお礼申し上げます。

金融機関を取り巻く環境は、都銀や生・損保の統廃合、異業種からの銀行業参入など、競争激化に一段と拍車がかかっております。また、本年4月からペイオフが解禁となり、お客様や地域社会からの選別の目が厳しくなっております。

このような中、私どもは地域金融機関としての存在意義を確立するため、中小企業のお客様、並びに個人のお客様のニーズを的確に捉えて、新しいビジネス形態をつくりあげていかなければならないと考えております。

現在、第五次中期経営計画「POWERFUL INNOVATION 21」のもと、役職員一丸となって各施策に鋭意取り組んでおります。

引き続き、時代の変化およびお客様のニーズに対応した金融サービスの提供と、健全性をさらに高めて強い経営体質を構築し、地域社会の発展に貢献してまいります。

皆様のご指導、ご鞭撻と、なおいっそうのご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

取締役頭取 三田村俊文

経営理念

地域社会への貢献

私どもは幸せな人間生活と豊かな社会づくりに貢献することを銀行活動の使命とします。

健全な経営

銀行の発展は、地域社会への貢献の証であり、私どもの存在を可能とするため、より健全な経営に心がけます。

活力ある職場

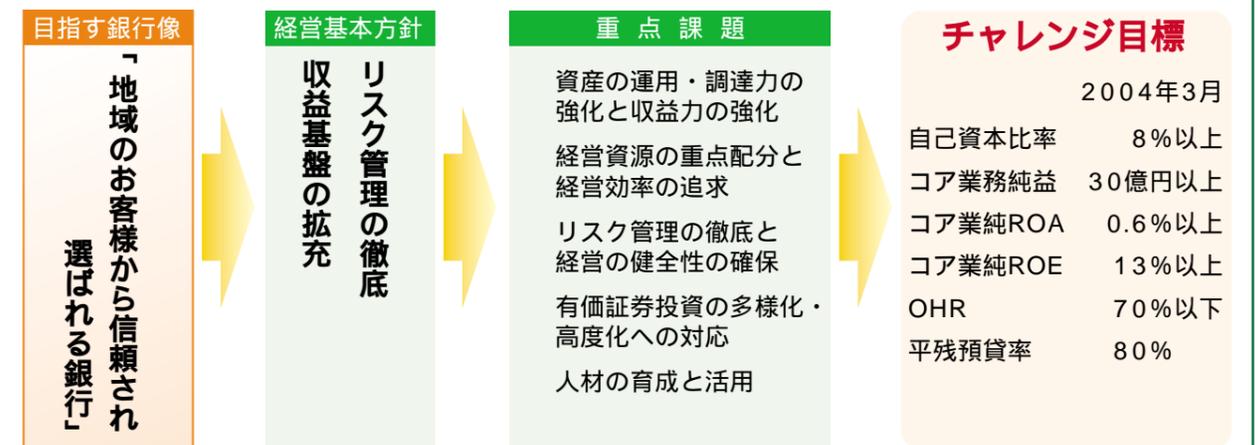
私どもが人間として尊厳を勝ちとるための錬成の場として、明るく活力ある職場づくりに努めます。

第五次中期経営計画「POWERFUL INNOVATION 21」 期間：2001年4月～2004年3月

経営環境の変化や経営課題を克服し、地域金融機関としての存在を確立していくための指針として「第五次中期経営計画」(POWERFUL INNOVATION 21)を策定し、2001年4月から実施しております。

21世紀、福邦銀行が目指すのは「地域のお客様から信頼され選ばれる銀行」です。

「収益基盤の拡充」「リスク管理の徹底」を経営基本方針に、チャレンジ目標の達成に向けて、諸施策を確実に実施してまいります。



平成13年度業績の概要

■経営成績

経済概況

当期におけるわが国経済を顧みますと、世界的なIT不況や、持ち直しつつあった米国経済が同時多発テロの勃発により悪化傾向が強まった影響を受け、国内の生産活動は停滞し、輸出や設備投資が減少したことなどから厳しい展開で推移しました。しかし、年明けとともに、在庫調整の進展などから、国内景気の下押し圧力は弱まりつつある状況となりました。こうした状況下、個人消費につきましても、所得や雇用環境に回復の兆しは見られず、依然厳しい状況が続く展開となりました。

当行の主たる営業基盤である福井県内の景況につきましては、電気機械製造業など一部の業種では、在庫調整の進捗などにより下げ止まりの兆しも見られましたが、設備投資が業績の悪化などに伴い低水準で推移したように、全体的には景気は引き続き低迷し、厳しい状況となりました。

この間の金融情勢につきましては、国内景気の冷え込みから金融緩和策が継続的に実施され、超低金利状況が持続する展開となりました。

連結ベースの経営成績

経常収益は前期比10億19百万円減少して119億59百万円、また、経常費用は前期比5億14百万円減少して114億6百万円となりました。

この結果、経常利益は前期比5億5百万円減少して5億53百万円となり、当期純利益は前期比1億83百万円減少して1億85百万円となりました。

単体ベースの経営成績

経常収益は貸出金利回りの低下等による資金運用収益の減少などの要因により、前期比10億15百万円減少して116億80百万円となりました。一方、経常費用は、預金利回りの低下等による資金調達費用の減少などの要因により前期比7億17百万円減少して108億99百万円となりました。

当行は、資産の健全性をさらに高めるため、厳格な自己査定基準に基づき諸償却・引当を実施したほか、有価証券は時価が30%以上下落したすべての銘柄について減損処理を実施しております。

以上のことから経常利益は前期比2億98百万円減少して7億81百万円となり、当期純利益は前期比1億10百万円減少して、2億2百万円となりました。

■財政状態

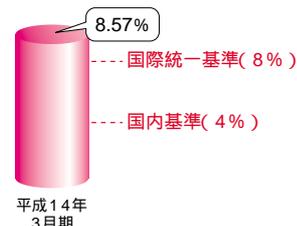
預金は当期中36億93百万円増加し、期末残高は4,326億25百万円となりました。また、個人預金は引き続き堅調に推移し、当期中103億11百万円増加しました。貸出金は、事業性融資が伸び悩む中、住宅ローンが順調に推移した結果、当期中24億60百万円増加し、期末残高は3,385億95百万円となりました。

また、昨年5月に経営破綻した春江信用組合の事業譲り受けにつきましては、平成14年3月18日に預金4億58百万円、貸出金10億60百万円を譲り受けて完了いたしました。

連結キャッシュ・フローにつきましては、営業活動によるキャッシュ・フローは、コールローンの減少等により277億7百万円の流入となりました。投資活動によるキャッシュ・フローは、有価証券の取得等により228億50百万円の流出となりました。財務活動によるキャッシュ・フローは、親会社の配当金支払等により1億62百万円の流出となりました。全体で現金及び現金同等物は47億3百万円増加して、期末残高は155億9百万円となりました。

■自己資本比率（国内基準）

自己資本比率は銀行の安全性・健全性を示す重要な指標の一つとされており、当行のよ
うに海外に支店を持たない銀行は国内基準の4%以上が義務付けられております。平成
14年3月期は、単体・連結ともに8.57%となり、基準を十分クリアしております。引
き続き健全な経営体質の堅持・強化をはかり自己資本の一層の増強に努めてまいります。



■配当政策について

当行は従来から、銀行業としての公共性に鑑み、長期にわたって安定経営に努めるとともに、配当につきましても安定した配当の継続を基本方針としております。この方針に基づき、当期におきましても、中間配当を1株当たり2円50銭、期末配当金は1株当たり2円50銭とし、年間5円といたしました。今後も引き続き内部留保の充実による財務体質の強化と営業基盤の拡充をはかり、一層の収益向上に努め、株主各位のご期待に添うべく努力してまいります。

〔業績の推移〕

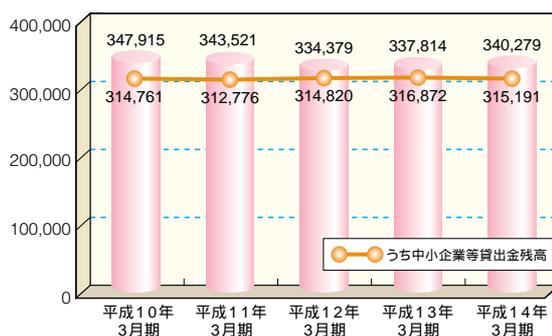
預金(単体)

(単位:百万円)



貸出金(単体)

(単位:百万円)



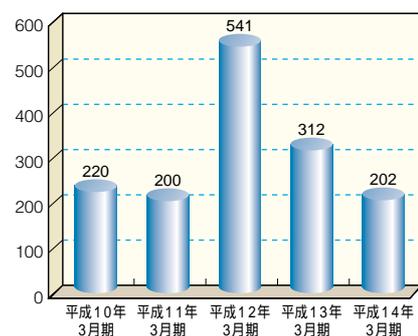
経常利益

(単位:百万円)



当期純利益

(単位:百万円)



業務純益

(単位:百万円)



連結経常利益

(単位:百万円)



連結当期純利益

(単位:百万円)

